

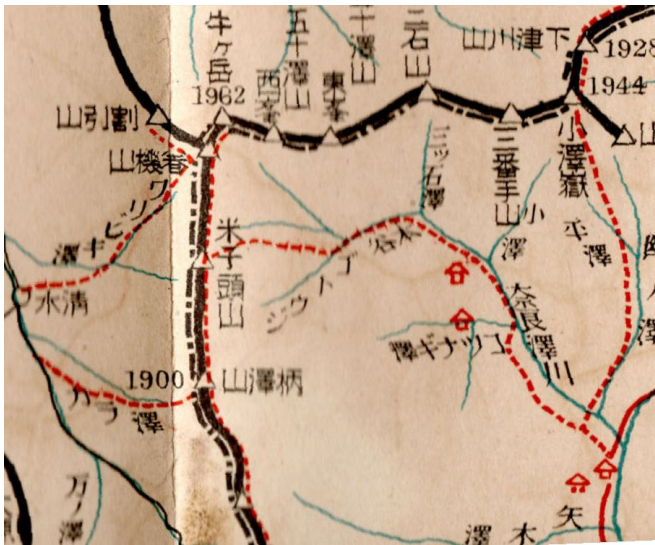
「尾根と谷 (6)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

上越国境(群馬と新潟の県境)の連嶺の中でも、私が一番好きな山が「巻機山(まきはたやま)」である。実際には、「牛ヶ岳(うしがたけ)」、「割引山(わりめきやま)」との3ピークを総称して「巻機山」と呼ぶことが多い。ここは、人里からも鉄道駅からも遠く、非常にアプローチの難しい山域だ。



登山の準備、前泊、案内人などを頼む場所のことを「根拠地」という。巻機山の根拠地は「清水集落」だ。今はちゃんとした登山道が整備されているが、当時はほぼ何もなかっただろう。事実、戦前の山域概念図を見ると、-----で示された道がたくさん書いてあるが、実際にはここに道はない。「通れる」という程度の表示か、或いは「杣道(そまみち)」と呼ばれる、漁師が使う「踏みあと」がある程度だ。



(氏姓不明) 巻機山の五月

左下の写真は、戦前の登山案内書に掲載されていた、「五月の巻機山(牛が岳)」である。ことあたりは、残雪期が最も歩きやすい。冬は吹雪でしかも雪が深くて近寄れず、夏から秋はハイマツとササの中を「藪漕ぎ」が待っている。残雪期は雪田(せつでん=所どころに残った残雪)をたどりながら楽に歩けるのだ。



「雪田」(上信国境の破風岳の山腹)



私がこの山域を歩き回っていた、30年ほど前の地形図を見ると、巻機山東側の利根川源流域を盛んに探検していたことがよくわかる。実はこの行為は、登山者としては相当に行儀の悪いことだ。今では特別な許可をとらないとできないだろう。入山者の少ない山域なので、万が一遭難したらそれは死を意味するのだ。